那那那

総会の新たな開催方法に関する方針、会員の近況報告（総会出欠回答ハガキに記載）、2023 年度の各県人事異動、新規会員の入会挨拶（春田潔氏）、九重愛好会及び那の会ゴルフコンペの成績、松崎編集委員長の自由投稿「ワイン考」などを掲載。

（４）親睦活動の開催

新型コロナの影響がまだまだ残る中、以下の活動が行われました。

・九重愛好会：2023 年６月９～10 日に九重山のミヤマキリシマ、オオヤマレンゲ鑑賞登山に８名が参加、2023 年 10 月 27～28 日に九重山の紅葉鑑賞登山に６名が参加（※2024 年は６月７～８日にミヤマキリシマ鑑賞登山を予定）

・那の津会ゴルフコンペ：春は 2023 年４月７日に８名が参加、秋は 10 月 25 日に 12 名が参加し、セントラル福岡で開催。春は長崎氏、秋は合原氏が見事に優勝

（５）2023 年度会計監査

2024 年４月８日、九防協において三坂常任監事により実施されました。

立会者：吉村会長、城崎常任会計幹事、池田常任幹事事務局長

４　議　事

１）第１号議案（2023 年度会計決算及び監査報告について）

別紙１：2023 年度那の津会収支報告書・監査報告書

２）第２号議案（2024 年度会務方針及び予算案について）

（１）会務方針

新型コロナ感染症の収束が未だ見通せない中ではありますが、本総会をはじめとして、九防協主催の成績検討会、納涼会、賀詞交歓会などの各種行事への参加など、可能な限り、感染症発生以前の活動に取り組み、支援を行ってまいります。

慶弔規定（内規）に基づき、米寿（88 歳）の祝電やご逝去に対する弔電を発信するため、会員の皆様からのご連絡をお願い致します。

「那の津会だより」を年に１回（10 月）定期に発行するため、皆様の積極的な投稿をお願い致します。

また、本会の運営、特に総会の開催時期・方法等については、本会会則の目的に沿って会員相互の親睦・交流を促進するため、毎年５月に懇親会を合わせて開催してまいります。

（２）2024 年度予算案

別紙２：2024 年度那の津会予算（案）

３）その他

今後の検討事項

本会会則の規定（内規）には、米寿（88 歳）を迎えられた会員に対して会長から祝電を発することとなっていますが、今後は記念品の贈呈など、祝電以外のお祝いの方法について常任幹事会で検討することとなりました。

別紙：会員名簿

2024年度　那の津会員名簿

常任会計幹事　　城崎良巳

2024年4月8日現在（会員数75名）

No.	氏　　名	役　職	No.	氏　　名	役　職	No.	氏　　名	役　職
	福岡県：10名			大分県：8名			農水省：2名	
1	池田 弘	県・常任幹事事務局長	28	安藤　俊二		51	馬場　洋子	団体幹事
2	梶谷　裕二		29	小野　元治		52	和田　　節	
3	角重　和浩		30	菊池　徳宏				
4	髙崎登美雄		31	北内　義弘	副会長			
5	嶽本　弘之		32	佐藤　俊次				
6	野口　保弘		33	中尾　茂夫			農業団体：1名	
7	古庄　雅彦		34	挾間　　渉	県幹事	53	青木　康晃	団体幹事
8	山田　健一	常任幹事	35	吉松　英明				
9	山中　正博							
10	吉村大三郎	会　長		宮崎県:3名			メーカー：22名	
			36	櫛間　義幸		54	秋山　茂信	
			37	田村　逸美		55	安達　二郎	
			38	野中　耕次		56	石田省三郎	
	佐賀県：6名					57	今泉　博樹	
11	菅　　正道					58	入江　裕章	
12	口木　文孝			鹿児島県：12名		59	江口　浩喜	
13	田代　暢哉		39	和泉　勝一		60	江崎　洋一	
14	松崎　正文	副会長・会誌編集委員長	40	井上　栄明	県幹事	61	大野　雄三	
15	御厨　初子	県幹事	41	尾松　直志		62	合原　茂宣	
16	脇部　秀彦		42	上和田 秀美		63	佐藤　淳彦	
			43	坂口　徳光		64	重松　昭二	
			44	末永　　博		65	城崎　良巳	常任会計幹事
			45	瀬戸口　脩		66	髙島　千洋	
	長崎県：4名		46	田中　　章		67	田所　雅博	
17	坂口　荘一		47	鳥越　博明		68	種子田秀秋	
18	寺 本　　健	常任幹事	48	宮路　克彦		69	中川　　弘	常任幹事
19	松尾　和敏	県幹事	49	牟田　辰郎		70	長崎　五男	
20	横溝徹世敏		50	山口　卓宏		71	永田　信彦	団体幹事
						72	春田　潔	
						73	日高　光平	
				会員動向(届け順)		74	三坂　克彦	常任会計監事
	熊本県：7名					75	安武　洋	
21	奥原　国英			今泉　博樹	23年度入会			
22	清田　洋次			入江　裕章	23年度入会			
23	行徳　　裕			尾松　直志	23年度入会			
24	小牧　孝一	県幹事		秋山　茂信	23年度11月入会	＊個人情報保護のため、氏名のみの名簿配布とします。 住所・電話番号等必要な方は、那の津会常任幹事または、九防協事務局へ問い合わせください。		
25	田上俊太郎			江口　浩喜	23年度11月入会			
26	森山　美穂			櫛間　義幸	23年度11月入会			
27	山田　一宇							
				堀田　正彦	24年1月逝去			
				＊退会扱い　会費未納他				

別紙１：2023 年度那の津会収支報告書・監査報告書

2023年度（第29回）那の津会収支報告書

（2023年４月１日～2024年3月31日）

2024年4月8日

常任会計幹事　城崎良巳

（収入の部）　（単位：円）

項　目	予算	決算	予算差異	摘　要
繰 越 金	452,662	452,662	0	
入 会 金		12,000	▲ 12,000	会費徴収無　新規入会者6名 ×2.000円
預金利子		4	▲ 4	
小　計	452,662	464,666	▲ 12,004	
預 り 金			0	
合　計	452,662	464,666	▲ 12,004	

（支出の部）

項　目	予算	決算	予算差異	摘　要
事務用品	20,000	0	20,000	封筒・文房具・用紙代
印 刷 費	30,000	13,407	16,593	会誌・総会案内状・葉書印刷代
通 信 費	40,000	21,399	18,601	総会案内・会誌発送 ・切手葉書代
会 議 費	40,000	37,507	2,493	総会・常任幹事会、お茶弁当会場費
交 通 費	70,000	55,760	14,240	常任幹事会・ 会計監査・総会案内会誌発送等
慶 弔 費	20,000	0	20,000	長寿お祝い祝電・弔電
活動補助金	20,000	20,000	0	同好会活動補助金（山の会・ゴルフ会各10.000円）
予 備 費	212,662	0	212,662	
合　計	452,662	148,073	304,589	

（差引残高）　464,666　－　148,073　＝　316,593　{次年度繰越金}

【未納金額】

監　査　報　告　書

私は2024年4月8日に会計幹事より提出された決算報告書について監査を行い、帳票書類は正確であり、決算方法については適正と認めました。

常任会計監事　三　坂　克　彦

別紙２：2024 年度那の津会予算（案）

2024年度（第30回）那の津会予算（案）

（2024年4月１日～2025年3月31日）

2024年4月8日

常任会計幹事　城崎良巳

（収入の部）　（単位:円）

項　目	023年度決算	024年度予算	前年差異	摘　要
前年度繰越金	452,662	316,593	▲ 136,069	
会　費	12,000		▲ 12,000	会費徴収無　新規加入者入会金のみ
預金利子	4		▲ 4	
小　計	464,666	316,593	▲ 148,073	
預り金			0	
合　計	464,666	316,593	▲ 148,073	

（支出の部）

項　目	023年度決算	024年度予算	前年差異	摘　要
事務用品	0	20,000	20,000	封筒・文房具・用紙代
印刷費	13,407	30,000	16,593	会誌・総会案内状・葉書印刷代
通信費	21,399	30,000	8,601	総会案内・会誌発送 ・切手葉書代
会議費	37,507	50,000	12,493	総会・常任幹事会、お茶弁当会場費
交通費	55,760	70,000	14,240	常任幹事会・ 会計監査・総会案内会誌発送等
慶弔費		20,000	20,000	長寿お祝い祝電・弔電
活動補助金	20,000	20,000	0	同好会活動補助金（山の会・ゴルフ会各10.000円）
予備費	0	76,593	76,593	
合　計	148,073	316,593	168,520	

那の津会総会の出欠回答ハガキに記された会員の近況報告	
（敬称略、順不同）	
吉村大三郎	今回から那の津会単独の総会ですが、出席はどうなるでしょうか、心配です。
池田　弘	県を退職して17年、今年３月に10年間お世話になった農林業総合試験場病害虫部の会計年度職員を辞し、完全フリーになりました。今のところコレステロールを抑える薬ぐらいで、週に３～４回のジュニアや高齢者のソフトテニスで汗を流し、栽培歴50年ほどになるエビネ、寒蘭、春蘭の世話を続けています。
角重和浩	再就職して３年目になりましたが、若い人達と一緒に充実した毎日を送っています。プライベートでは社交ダンスで各種競技会にも参加しています。
高崎登美雄	お世話様です。ペースメーカーを入れて３年になり、機械で生かされているようなものです。生活には特に不都合はありません。毎日の晩酌が唯一の楽しみです。
古庄雅彦	農業生産資材協会で７年目に突入しました。また、九防協と那の津会のゴルフ大会、頑張りたいと思います。
山田健一	元気に野菜、果樹作りを楽しんでいます。魚釣りは病気を機会にキッパリと止めましたが、昨年からは詩吟の練習に励んでいます。詩吟は大きな声を出して詠うので健康的で頭の体操にも良さそうです。
山中正博	カミさんからしょっちゅうせっつかれているもののミステリ本、レコード、ＣＤ、映画ＤＶＤの整理・処分、なかなかはかどりません。
菅　正道	近年、緑内障がすすみ、60年使っていた運転免許を返納しました。この間、何回も違反をして反則金を納付しました。しかし、不思議と「ねずみとり」にかかったことがなく、警察のダンナから「あんたみたいに悪運の強い人もいるんだ」とあきれられていました。
口木文孝	お世話になります。
田代暢哉	申し訳ありません。仕事の都合上、欠席させていただきます。一般社団法人プラントヘルスケア研究所を立ち上げて５年目の春を迎えています。あわただしい毎日ですが、それなりに充実した日々を過ごしています。盛会を祈念します。
松崎正文	「植防コンサルタント」業（個人事業主）を始めて約４年、まだまだ暇です。昨年から校区社会福祉協議会事務局の仕事もしています（ボランティア）。那の津会員の行動も年とともに少なくなり、原稿が集まらず、小生の趣味であるワインの話、「ワイン考」を継続投稿してます。会員の方々の投稿をお願いします。（那の津会だより編集担当）
御厨初子	高齢者大学に出席し、いろいろなクラブ活動に出席し、楽しく過ごしています。事務局の皆様ありがとうございます。
坂口荘一	那の津会のご繁栄をお祈りいたします。いつも九重愛好会ではお世話になっています。６月７日の話題のネタを求めて４月11～12日に四国の山を歩いてきました。ありました！　ありました！　当日、映像でお楽しみ頂けるものと思います。
寺本　健	仕事の都合で出席できず、申し訳ございません。毎週、九州を中心に出張しております。
松尾和敏	引き続き住友化学で技術顧問としてお世話になっています。今後ともどうかよろしくお願いします。

横溝徽世敏	今年の玉葱はべと病の防除もうまくいき、豊作でした。ソラマメは収穫期になりましたが、カメムシの被害が例年になく甚大です。ジャガイモ、里芋の生育は順調です。これからスイカ、ニューメロン、オクラ、ショウガ等の作付けが待っています。今回は都合により欠席します。
清田洋次	お世話になっています。我が家の庭に来る虫を観察し、記録しています。
小牧孝一	今年３月末で仕事をやめ、４月からは地区の区長としての活動と趣味の園芸に忙しい日々を過ごしています。
田上俊太郎	お陰様でなんとか元気に過ごしております。昨年の秋は初めて「九重愛好会」登山に参加、懐かしいメンバーの皆さんと久々に交流できました。元気の証にと今年の夏も参加したいと、体力づくりの一環に毎朝近所の公園でのラジオ体操に励んでいます。
森山美穂	お世話になっております。コロナも５類になり早１年経ち、気分は外出モードですが・・・・。家時間を楽しみながら断捨離に励んでいます。
山田一宇	昨年12月に硬膜下血腫のため、頭に穴を開ける手術をしました。酒の飲みすぎを控えていますが、めまいがたまにあります。盛会を祈念します。
安藤俊二	認知症の進行により入浴がおっくうになりましたが、家庭菜園の草取りと月１～２回のゴルフを楽しんでいます。盛会を祈念申し上げます。
小野元治	昨年手首を痛め、８カ月ゴルフを休んでいました。徐々に回復していますが、完治、復調はまだまだです。
北内義弘	花卉園芸、家庭菜園、自然観察、地元シニアクラブの活動等で日々楽しく過ごしています。
佐藤俊次	久しぶりに出席させていただきます。よろしくお願いします。ヒザ関節が非常に痛んできまして、家庭菜園の草取りに苦慮しています。くわ仕事、草刈り機などの仕事は順調に出来ています。各種病害虫の発生にも毎日悩んでいる現況です。
中尾茂夫	おかげで、何とか元気にやっています。相変わらず、時々ボランティア的に果樹指導をしています。５年前からふるさとの梅園づくり（地方創生）を支援しています。そろそろリタイアのタイミングです。
挟間　渉	普段は元気なつもりでしたが、最近は故障個所が急にあちこち拡大し、体調不良の日々です。ご盛会をお祈りします。
吉松英明	県退職後、国東市役所で５年勤務しましたが、この３月末で退職しました。４月から地区の区長をすることになりました。今回、区長用務と重なったため欠席します。久し振りに皆さんにお会いしたかったのですが。
櫛間義幸	昨年３月末に宮崎県庁退職後、実家の手伝いをしていましたが、今年になってから本格的に就農することになりました。今さらながらに果樹、カンキツの難しさを痛感している次第です。２年目を迎え、地域の役目などもまわって来そうな気配で悩ましい毎日です。
田村逸美	くすりを飲みながらですが、元気に、楽しく過ごしています。
野中耕次	足腰の調子が年と共に悪化しており、出席できません。ご盛会をお祈りします。今年の６月末でやっと80歳になります。もうしばらくは、頑張りたいと思っています。
和泉勝一	健康維持のための月３回程度のゴルフ、趣味程度の絵画など楽しんでおります。

井上栄明	会社務め６年目に入りました。年金も本格支給の歳になり、よくしたもので身体の劣化（いや成熟だ、これこそ成熟の証しなのだ！）があちこち表れてきています。どんどん熟れていく身体にへえー、こう成るものかと我身再発見の日々です。
末永　博	この４月から月10日のパートで働き始めました。
瀬戸口　修	今のところ元気で、週２～３回のテニスを楽しみ、田舎の生家の庭木や果樹の手入れや野菜作りで汗を流しています。
鳥越博明	サンケイ化学にお世話になっています。テニスや庭いじりなど楽しんでいます。
山口卓宏	県農業環境協会３年目になりました。頭と体に適度に負荷をかけながら過ごしています。最近はすっかり朝型生活なってしまい５時前には目が覚めてしまいます。老化ではないと思っていますが・・・
馬場洋子	今春は昨年の分を取り戻すかの如く、自然も（私も）一気に雨の恵みと太陽とを受けどんどんと伸び、花も色々に咲き誇っております。私の方は今一歩控え目についていっております。「いわしの頭も信心から」のたとえをサイエンティフィックに解釈し、せっせと食しております。
和田　節	テニスやトランポリンに励み、感覚器官（目、耳、鼻）以外は元気にしています。
青木康晃	今年も（公社）ふくおか園芸農業振興協会に勤務しております。
秋山茂信	再雇用により就労中のため出席かないません。申し訳ございません。現在、再雇用にて住友化学（株）にお世話になっております。
安達二郎	５/22～5/24九州農業ウィーク（於　熊本市）参加の為に出席出来ません。
石田省三郎	幹事担当ご苦労様です。欠席ばかりで申し訳ありません。毎日元気に過ごしています。ただ、気力や記憶力の低下がかなり進んできました。
今泉博樹	2023年４月に新規入会させて頂きました。九州三共（株）、三共アグロ（株）、三井化学アグロ（株）、三井化学クロップ＆ライフソリューション（株）で仕事をして、60才定年で皆様にお世話になりました。これからもよろしくお願いいたします。
入江裕章	手術し、入院中となるため、欠席させていただきます。
江口浩喜	昨年の４月から三井化学アグロ（株）から三井化学クロップ＆ライフソリューション（株）に社名が変更になりました。引き続き、よろしくお願い致します。
大野雄三	近々目の手術をします。最近急に視力が落ちてきました。なんとか生きています。
合原茂宣	５月の連休は柿の摘蕾と下草取りであっという間に終わりました。毎日が早く過ぎて行きます。
佐藤淳彦	相変わらず家庭菜園作りでガンバっています。最近体力の衰えを感じるようになりました。
重松昭二	所用により出席できません。盛会を祈念しています。
城崎良巳	年々服薬が増加しています。今年は酷暑予報です。皆様、健康に留意しましょう。

種子田秀秋	足腰の衰えを強く感じています。会の盛会をお祈りしています。
中川　弘	シンジェンタジャパン（株）との契約延長により仕事を続けています。
長崎五男	傘寿の山まで登り切りましたが、最近は病院との付き合いが多くなりました。日々、家庭菜園、低山登山、町内ゴルフコンペを楽しみに暮らしています。これからも健康第一の生活に心がけて過ごします。
永田信彦	住化農業資材（株）を６月末で退職いたします。５月22日は引き継ぎの為出張していますので、欠席させていただきます。
春田　潔	業務の関係で出席できません。宜しくお願い致します。
日高光平	当日、仕事のため欠席させていただきます。ご盛会をお祈りします。
安武　洋	植物防疫コンサルタント会社 Agriculture Brains Services の社長として作物栽培者の方々の笑顔に囲まれていますが、昨年11月に北海道ツーリング目指してのバイク練習中に転倒、右肩骨折３カ所と脱臼で５本の鋼線釘で接続。全ての抜釘完了は今年の12月予定でゴルフ復活は来年持ち越しとなりました。今年はリハビリと共に「農薬の有用性や適正・安全使用」の啓蒙や啓発に専念してまいります。総会＆懇親会で皆様方とお会い出来るのを楽しみにしています。

令 和 ６ 年　賀 詞 交 歓 会

九防協・農薬工業会主催で恒例の新年賀詞交歓会が、１月５日（金）午後４時から福岡市中央区天神の「福岡ガーデンパレス」にて、賛助会員他多数の方々が参加され、山口純一郎 常務理事の司会のもと、賑やかに開催されました（那の津会会員の方も参加されました）。

この賀詞交歓会は、新たな年を迎え会員相互の情報交換と親睦の場として親しまれています。また、「一年の計は元旦にあり」とも言われるように、会員・会社（農薬業界全体）の健全な発展・繁栄を確認する場として大切な意味があるように思います。

開会にあたり、九防協の堤　隆文 会長と**農薬工業会＊**九州支部 副支部長の鈴木一輝 氏（バイエルクロップサイエンス(株)九州営業所長）から年頭の挨拶と乾杯の音頭で、和やかに交歓会が始まりました。今年は 90 名以上の参加者があったということで、元気な社会・幸せを願う思いが満ち溢れた賀詞交歓会となりました。今年の年男の方々にご登壇いただき、抱負を頂きました。

例年通り名刺の交換があちらこちらで見られ、顔見知りの常連さんは日常の会話・自慢話ともに和気藹々で、賀詞交歓会の雰囲気を楽しんでおいでのようでした。

賑やかに交歓会は進み、那の津会会長の吉村大三郎 氏に最後のご挨拶を頂き、お開きになりました。

お開き後は、各自あるいはグループで二次会へ行かれた方もいらっしゃいました。楽しまれたことと思います。

＊農薬工業会は、2024 年 5 月 15 日より**「クロップライフジャパン」**に名称変更されました。

2024 年 飢人地蔵大施餓鬼供養納涼会が開催される

例年８月 23 日より 24 日まで、上川端町地蔵組合が施主となり、福岡市博多区中洲に祀られている「川端飢人地蔵尊」の供養が行われます。

那の津会ではこの時期に会員各々がお参りをして、その後の九防協納涼会に参加しております。2024 年は８月 23 日にお参りを行い、納涼会が福岡市博多区中洲の「ザ・ライブリー福岡博多」で 18 時から開催されました。参加人数：42 名。那の津会からは 16 名の参加となりました。

九重愛好会　第 20 回記念　【錦秋紅葉鑑賞登山】登山

開催日：2023 年 10 月 27 日（金）～28 日（土）
開催場所：九重山系久住山・扇が鼻・黒岳・ソババッケ、湯坪温泉遊雀荘（泊）
参加者：田上、岩田、御厨、堤、長崎、挾間
10/27　牧ノ戸峠～久住山（挾間)、同峠～扇ヶ鼻（長崎、御厨)、残りの３名は夕方合流
10/28　黒岳周辺　堤（ライフワークの実践)、挾間・岩田は山頂まで、横山・岩田・御厨はソババッケ方面を散策

今回の九重愛好会は両日とも雨に遭うこともなく、まずまずの好天に恵まれ、紅葉も見ごろで心ゆくまで堪能できました。添付した長崎さん撮影の写真集を観れば一目瞭然。星生山山腹や久住山の山腹が午後の陽光を浴びて色鮮やかでした。また翌日の男池からソババッケ周辺も「負けず劣らず」でした。

今回は常連の方々が何かと都合が悪く第 20 回記念と銘打ちましたが、参加者が６名と、少々さみしい感じでした。その一方で熊本から田上俊太郎さん（熊本県 OB）が初参加され、また、東京から福岡に２年ぶりにＵターンした岩田晴さん（住友化学現役）の参加など、今後に期待が持てる登山会となりました。

夕餉の前後のスライド映写会では、長崎さんからは 20 回記念ということで、これまでを振り返って懐かしいスライドの数々が紹介されました。懐かしい諸先輩のお顔を拝見し感慨深いものがありました。また、堤さんからは春蘭ほか東洋蘭などの深みのあるコレクションの紹介がありました。盛り上げていただきありがとうございました。

最後に、次回第 21 回はミヤマキリシマ鑑賞登山会として日にちは 2024 年６月７日（金）～８日（土）に決定しました。７日の宿は九重愛好会の、もう一つの馴染みの宿である馬子草温泉民宿「絆」ということで決定しましたが、問い合わせたところ民宿「絆」は数年前に廃業したとのことでした。宿は別に探すこととして、次回の日にちだけは今から予定を空けておいてください。よろしくお願いいたします。（文：挾間記、写真：長崎撮影）

第 20 回記念:九重愛好会 【錦秋紅葉鑑賞登

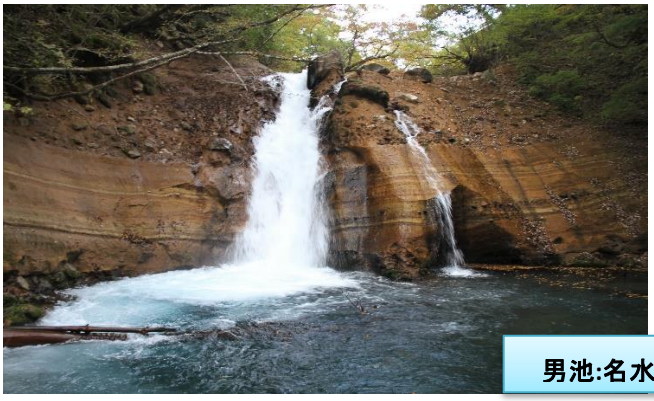
10/27:民宿・遊雀荘

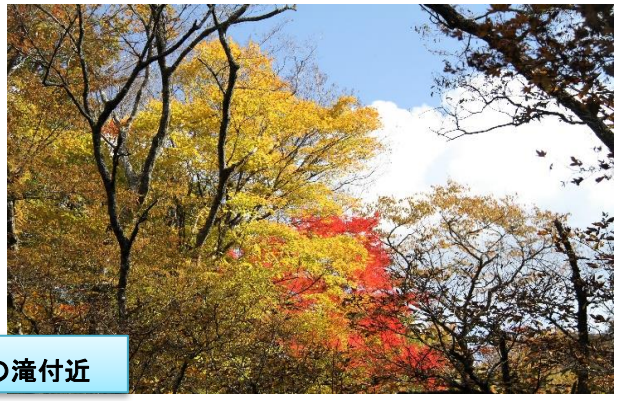
10/27:9 時 30 分発・牧ノ戸峠登山口

10/28:男池一かくし水付近

10/28:男池登山口

ソババッケ付近紅葉ピーク





男池:名水の滝付近

沓掛山から三俣山展望

沓扇が鼻から久住山展望

星生山西面

10/27：ナベ谷紅葉ピーク

九重青少年の家前草原

九重夢吊り大橋

民宿：遊雀荘の至福の時

（自由投稿）　　ワ　イ　ン　孝

「肉酒場ＢＯＮ」で飲んだフランス産赤ワイン🍷と食事🍴

松崎正文（佐賀市在住）

日　時：2023 年４月 28 日（金）、18：30～21：00
場　所：肉酒場ＢＯＮ　佐賀市唐人２－４－５
参加者：Ｓ氏、Ｅ氏、小生の３名

2023 年４月１日付け佐賀県の人事異動で小生が勤務していた職場に所長として赴任したＳ氏のお祝いを兼ねて、佐賀市唐人町の「肉酒場ＢＯＮ」にて、Ｓ氏の大学時代の麻雀仲間であったＥ氏（実は小生の義弟）を交え、３名でワイン会を開催しました。

この酒場は小生の行きつけで、自然派ワインを主体に提供するお店であったため、酸化防止剤不使用の比較的年代の若いワインしかありませんでした。それで小生がストックしている赤ワインは年代物が多かったので、初回来店時の交渉で持ち込みが OK となりました。それ以来、この酒場に行く時は自宅のワインセラーから年代物の赤ワインを取り出し、持参しています。

今回、持ち込んだ赤ワインは**2005 年フランス産**（写真）です。最初の乾杯はスパークリングワイン(白)、その後は持ち込んだ赤ワインで。佐賀市川副町産の「光樹とまと（品種：サンロード）🍅」と美味しい肉🍖（しろいし牛 or 白富牛のヒレ・カタサンカク・カイノミ・ハラミ等とホルモン盛り合わせ：種類が多いので写真は省略：次回で写真紹介）をつまみに飲みました。

ちなみに「光樹とまと」とは、佐賀市川副町のミネラル豊富な干拓地で作られる、糖度・酸度・食味のバランスが取れた高級トマト。大玉トマト（品種：サンロード）の中でも、一定の選果基準クリアしたものが「光樹とまと」。「光樹とまと部会」では“メインディッシュ”になるようなトマトを目指し、栽培に取り組んでいる（佐賀新聞／Fit ECRU：vol.455、2023.５/５ Fri より引用）。

2005 年フランス産赤ワイン

昨年のワイン会に参加して

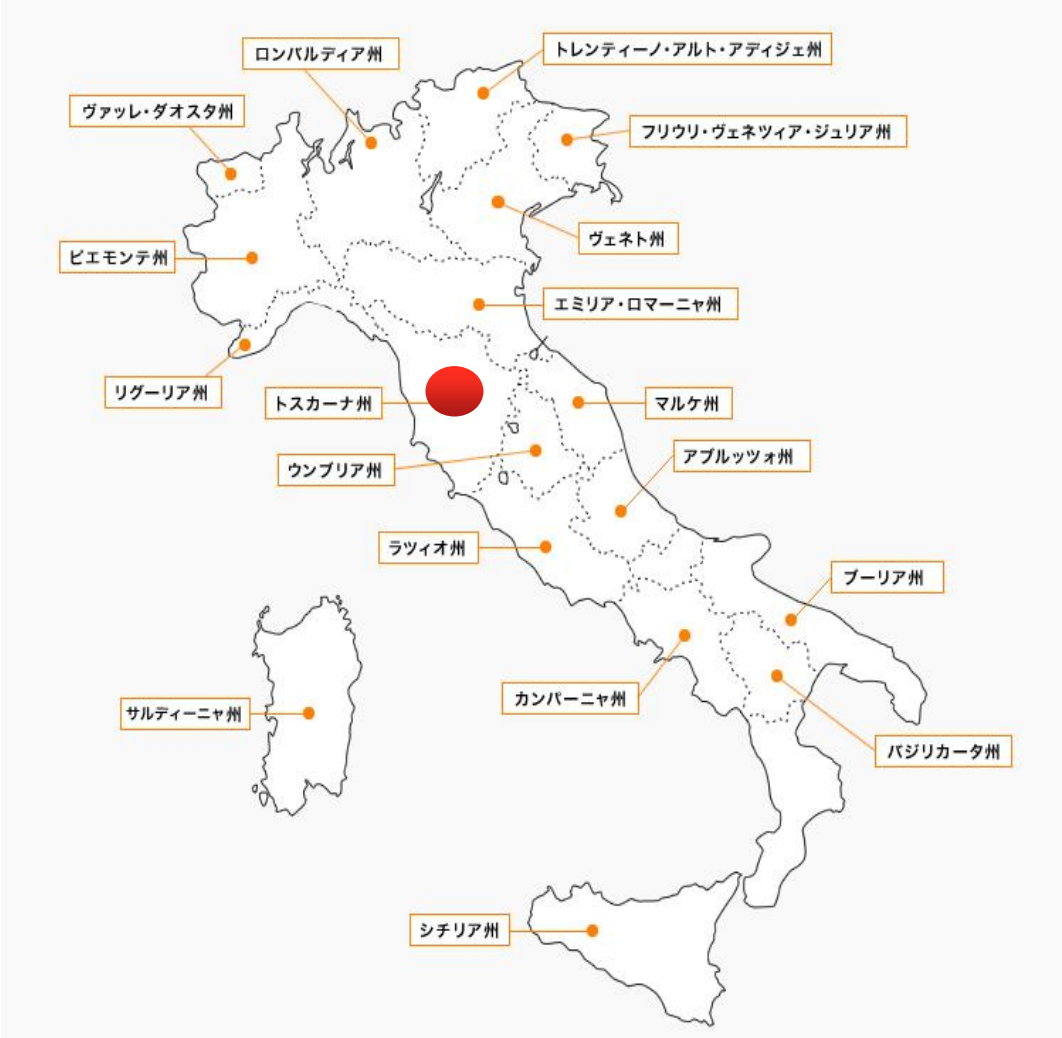
2023 年６月 11 日（日)、佐賀市白山２丁目にある「Vino Bar TOCCO」にて、夕方６時から９時まで、イタリア、トスカーナ地方のワイン（白１本、赤４本）と料理を堪能しました。参加人数は小生を含め８名（小生以外は 30～60 歳代）です。

以下の資料は「Vino Bar TOCCO」から提供していただきました。

青 空 ワ イ ン 会

di TOCCO

2023／６／11



イタリア ワイン

イタリアは生産量世界一位の世界最大のワイン生産地として知られています。イタリアほどワイン造りに適した国はないとも言われています。イタリアは地中海性気候と呼ばれる温暖で雨が少なく乾燥した環境にあります。そのため、イタリア半島の北から南まであらゆる場所でブドウ畑を目にすることができます。

そして、イタリアは日本と同じ様に国土が南北に細長く全体的に温暖で四季がありますが、湿度は少なくブドウ栽培に適した気候です。

トスカーナ地方

ルネサンス文化発祥の地、花の都「フェレンツェ」、世界一美しい広場がある、古都「シエナ」、イタルア定番の観光スポット、ピサの斜塔の「ピサ」、美しき塔の町と呼ばれる「サンジミニャーノ」、オルチャ渓谷の丘の上に立つ美しき「ピエンツァ」、まだまだ知られていないイタリアの魅力がつまったトスカーナ地方です。

そんなトスカーナはワインの宝庫でもあります。

ヴィーノノビレ・ディ・モンテプルチアーノ

モンテプルチアーノという名称ながら、使用品種はモンテプルチアーノではなくサンジョヴェーゼという、いかにもソムリエ試験に出てきそうなDOCG、ヴィーノノビレ・ディ・モンテプルチアーノ、アブルッツォ州ではなく、トスカーナ州にあるワイン産地です。

ブドウ品種は、サンジョヴェーゼのクローンのひとつの「プルニョーロ　ジェンティーレ」です。モンテプルチアーノの地区だけで呼ばれる名前で、プルニョーロと言う名前は、プルーニャ（プラム）の色と香り、味わいを連想させる特徴を持つことから付けられたもの。プルネッロディモンタルチーノや、キャンティとは異なる、この土地ならではのブドウです。

17 世紀の有名な医者で詩人でもあったフランチェスコ・レディが著した「トスカーナのバッカス（ワインの神様）」と言う詩には、モンテプルチャーノを「ワインの王様」と詠いました。この詩はヨーロッパ中で読まれ、イギリスやアイルダンド、スコットランドの王族たちがこのワインを求めて訪ねてきたと伝えられています。

「16 世紀の真珠」と称えられた美しい土地から生まれたこのワインが「ノービレ（高貴）なワイン」と言う意味を持つ名称になったもの、甘い香りとやわらかく、そしてどこまでも上品な味わいをもっているからです。

ディ／マルティエーナ・ビアンコ（白）

マルヴァジア種　　グレケット種
シャルドネ種　　ソーヴィニオンブラン種

トロピカルフルーツや白い花、黄色い花のフレッシュで複雑な香り良好な酸とミネラルが骨格を支えています。程よく続く余韻が心地よいです。

ディ／ロッソディモンテプルチアーノ（赤）

プルニョーロジェンティーレ種　主体
カナイオーロ種

生き生きとしたルビーレッド色。フレッシュでフルーティーな香り。タンニンは充分できめ細やか。ステンレスタンクのみ使用で若いうちからも楽しめますが、５年ほどの熟成も期待できます。

カルミニャーノ

カルミニャーノは、トスカーナ地方の中で一番北部に位置する DOCG 赤ワインです。

カルミニャーノの名前を聞いたことも無ければ、お目にかかったことも飲んだこともないという方が多いかもしれません。なにしろ、このカルミニャーノワインの地域は DOCG ワインの中でも最も小さいからです。生産者は僅か 10 社程度ですので、なかなかお目にかかれないのも無理からぬことです。

カルミニャーノは、イタリア固有のサンジョベーゼに、フランス原産であるカベルネ・ソーヴィニオンをブレンドしますが、そう規定されているのは歴史が大きく関係しています。それは 1533 年、メディチ家のカテリーナと、フランス国王アンリ 2 世とが結ばれたことに始まります。そのことによって、両家、両国の交流が始まり、フィレンツェにボルドーワインが伝わりました。ボルドーワインを好んだメディチ家が、カルミニャーノワインにカベルネ種をブレンドするように命じたことが始まりです。こうして、今のカルミニャーノスタイルのワインがスタートしたのです。

カルミニャーノの赤ワインは、鮮やかなチェリーピンクをしています。そしてブドウ本来の香りがする、酸味、タンニンの調和がとれた、なめらかで飲みやすい洗礼された味わいのワインです。トスカーナ地方ではポピュラーナなサンジョベーゼ種をメインに、カベルネ・ソーヴィニオン種やカナイオーロ種も使用しています。

カペッツァーナ／バルコレアレ・ディ・カルミニャーノ（赤）

サンジョベーゼ種　75％
カベルネ・ソーヴィニオン種　15％
カベルネフラン種　５％
カナイオーロ種　５％

明るいルビー色。大樽のオーク樽で６～８ケ月熟されており、果実味溢れるエレガントな香りが広がります。酸味とタンニンの調和が取れた味わいで、赤い果実を感じる柔らかな余韻があります。

ブルネッロディモンタルチーノ

「ブルネッロ」の愛称で親しまれている「ブルネッロ・ディ・モンタルチーノ」は、超長期熟成型の赤ワインで、中部イタリア・トスカーナ州で生まれました。バローロ、アマローネと並びイタリア高級ワインとして絶大な人気を誇るブルネッロですが、歴史は意外にも浅く、ブルネッロが誕生したのは 19 世紀後半、生産者たちが本格的に作り始めたのはなんと 1967 年以降、たったの 50 年しか歴史がないのです。

今から 150 年ほど前、モンタルチーノ村の生産者が、キャンティに使われていたサンジョヴェーゼ種のクローンから「サンジョベーゼ・クロッソ（別名：ブルネッロ）」というブドウを生み出しました。

このブドウは、他のサンジョヴェーゼよりも皮が厚く粒が大きいため「グロッソ（大きい）」と呼ばれ区別されました。ワインにするとタンニンはキメが細かく力強く、色が濃いのが特徴です。そのため長期熟成に耐えうるワインを造る事ができました。

19 世紀後半、３代目当主フェルッチョ・ビオンディ・サンティが、このサンジョヴェーゼ・グロッソを使って「100 年飲めるワインを造りたい！」という強い信念をもって、赤ワインの研究を重ね、現在の「ブルネッロ・ディ・モンタルチーノ」を完成させました。

ブルネッロ・ディ・モンタルチーノを名乗るためには、いくつかの条件が存在します。

＜ブルネッロ・ディ・モンタルチーノを名乗る条件＞

・ブドウは、標高 250m～600m のブドウ畑で栽培すること。

・ブドウの品種はサンジョヴェーゼ・クロッソ（ブルネッロ）を 100%使用すること。

・熟成期間は最低 50 ヶ月（約４年）かつ、その内２年は樽の中で熟成させること。

先に挙げたブドウの品種にも、ブドウ畑の標高や熟成期間などが細かく定められているのです。

なお、「ワインの熟成期間は長ければ長いほど良い」というわけではなく、使用するブドウによっては熟成に耐えられずに味が劣化してしまうことも少なくありません。

特にブルネッロ・ディ・モンタルチーノは、熟成ワイン向きのブルネッロ種のブドウを使っているため、**真価を発揮させるのにも時間がかかる**のです。

中には 10 年や 20 年という長い時を経て、ようやく飲み頃を迎えるブルネッロ・ディ・モンタルチーノもあります。

コルトネージ／ロッソディモンタルチーノ（赤）

サンジョベーゼ・グロッソ種　100%

ラ・マンネッラの単一畑。2011 年に植樹された最も若いサンジョヴェーゼ・グロッソ種。赤いベリー系果実やアーモンド、プラムなどの芳しい香り。大樽で 12 ヶ月熟成由来のしっかりとしたボリュームがあり、ラ・マンネッラの中でも個性が際だったワインのひとつです。

ボ ル ゲ リ

ボルゲリは、フィレンツェから車で２時間弱走った場所に位置する、ティレニア海と山に挟まれた小さな村です。そしてスーパータスカン（スーパートスカーナとも）の聖地として知られ 40 以上の有力生産者が競ってその品種を磨き、産地としての成熟度が高い評価に繋がってきました。

ボルゲリを世界的ワイン産地に押し上げたのは、間違いなくあの「スーパータスカン」サッシカイアです。きっかけは 1978 年に行われた有名ワイン評価誌主催のブラインド・テイスティングでした。サッシカイアは当時、テーブルワインとして扱われていたにも関わらず、あのシャトー・マルゴーを含む 11 ヵ国 33 種類のワインを抑え「ベスト・カベルネ」の座を獲得したわけです。そのずば抜けたクオリティの高さで「スーパータスカン」「イタリア最上の赤ワイン」と称賛され、世界的なブームを巻き起こしました。1994 年にはイタリアでは唯一、ボルゲリのワインとして初めて**単独ワイナリーでの D.O.C 昇格**を果たし、ボルゲリワインの品質の高さを世界に証明しました。

ボルゲリは同じトスカーナにある銘醸地、キャンティやブルネッロ・ディ・モンタルチーノとは異なる地中海性の温暖な気候が特徴です。

６～８月の乾燥した空気、日中の豊富な日照量のおかげで、晩熟のカベルネ・ソーヴィニオンでさえ秋の降雨時期の前に完璧に熟成できます。さらには海から吹く涼しい風がブドウの酸度を保つため、凝縮感と骨格が見事に調和したワインを生み出すことができるのです。

ボルゲリで使用されるブドウ品種は、カベルネ・ソーヴィニオンやカベルネフラン、メルローなどのボルドー系品種が主です。平均気温が 14℃と仏ボルドー地方とあまり変わらず、同じ粘土質土壌をもち、海岸沿いであるなどボルドーと似ている点が多いのは事実です。

しかしトスカーナ州ではサンジョベーゼなどが主に使用されるブドウ品種です。ですがこのボルゲリではボルドー系品種を使用します。サンジョベーゼの使用規定をあえて無視し、DOC や DOCG にこだわらずに生産されたワインが「スーパートスカーナ」、「スーパータスカン」と呼ばれるワインです。

テヌータ・ディ・ビセルノ

インソリオ・デル・チンギアーレ 2020（赤）

シラー種　34%　　メルロー種　30%
カベルネフラン種　カベルネ・ソーヴィニオン種
プティヴェルド種

ブラックベリーやプラムにかすかにスパイスが香る。生き生きとしたフレッシュさとバランスガとれた味わいです。フレンチオークの小樽で４ヶ月熟成されており柔らかく心地よいタンニンと滑らかな口当たりで、キレのよい後味を楽しめます。

このワイン孝の続きは第 52 号に。「**“肉酒場ＢＯＮ”で飲んだ 2004 年オーストラリア産赤ワイン**」と「広島県福山市沖野上町にある**山野峡大田ワイナリーの国産ワイン（白３本）、イタリア、シチリア島・サルデーニャ島のワイン（白１本・赤１本）**」と料理を堪能しました。お楽しみに。

（自由投稿）　　最後のアメリカ旅行

山田健一（唐津市在住）

私はこれまで娘が住んでいるアメリカには 2004 年以来５回行きましたが、81 歳になり身近な人が次々と亡くなっているのを見るにつけ、足腰が丈夫なうちに再度アメリカを旅行したいと強く思うようになりました。しかし、今は円安であり外国旅行には条件が悪い時期ですが、明日の命が分からない年齢なので思い切って出かける事にしました。ちなみに旅行に行った時 1 ドルが 159 円でしたが、2012 年に行った時には何と 85 円で、2018 年は 110 円でした。

今回は 2024 年６月３日から６月 20 日の 17 日間にわたり娘夫婦が居るアメリカ南部のルイジアナ州の州都であるバトンルージュを主体に、ワシントン DC とニューオリンズを旅行しました。アメリカはとても広い国なので群盲評象の感はありますが、その間に経験したり、感じたことを忘れないうちに書きとめたいと思います。

１.事前準備

外国で事故を起こしたり、病気になると多大の経費がかかるので損保ジャパンの海外旅行保険をネットで申し込みました。今回は 11,210 円の掛け金で 2,000 万円の保証が受けられる保険に加入したので安心です。それにアメリカに行く場合には、ESTA を登録する必要があるので、オンラインで手続きをしました。航空券は娘がアメリカからＡＮＡに申し込んで手配し、同時に高齢者の手助けをするエヤポートサポートを頼んでくれました。なお、エヤポートサポートは 65 歳以上の人なら無料で利用できます。

２.出発と到着

アメリカに行く時には前回まではすべて成田空港から出発していましたが、最近は羽田空港から出発する便が増えたのでとても便利になりました。唐津から福岡空港まで行きましたが、出発が早朝７時の便だったので前の日に空港近くのホテルに宿泊しました。福岡空港での受付は６時から始まり、予定通りの時間に出発し、順調に羽田空港に到着しました。羽田空港では頼んでいたエヤポートサポートの若い女性が出国審査に立ち会ったり、一緒にバスに乗って外国便が出るターミナルの優先搭乗口まで案内してくれたのでスムーズに搭乗する事が出来ました。ただ、セキュリティーチェックでは手荷物として持ち込んでいた、自家製のジャムと明太子は水分があるので持ち込めないと言われ没収されてしまいました。福岡空港では何も言われなかったのに、外国便はチェックがとても厳しいようです。このような事ならスーツケースに入れておけば良かったと、悔やまれましたが後の祭りです。

ヒューストン行のＡＮＡの客室乗務員（CA）はすべて日本人であり、テレビは日本語もあったので快適でした。ただ、乗客の殆んどは外国人で、日本人らしき人は僅かでした。満員の機内の狭い座席に約 10 時間以上もジッと座り続けるのは大変でしたが、乗客の中には 100kg を越すような巨漢もいたので、さぞかし苦痛だっただろうと思いました。飛行中には２回の食事とおやつが出たので、ビールやワインを飲んで、テレビを観てウトウトしていたら間もなく到着するとのアナウンスがあったのでホットしました。ヒューストン空港に到着するとここでも日本人のエヤポートサポートの女の人が待っており、入国審査に立ち会った

り、国内線の乗り換え搭乗口まで案内してくれました。何しろヒューストン空港はハブ空港なのでとても広く、電車で移動しなければいけません。娘夫婦が住んでいるバトンルージュまでは 60 人乗りの小さなユナイテッド航空を利用し、1 時間 40 分くらいの飛行で到着しました。日本との時差は 14 時間遅れなので、出発した日の 13 時 30 分の到着でした。空港には娘夫婦が迎えに来ており、荷物を受け取ってから家に行きました。

３.車社会

アメリカは車社会で、どこに行くにも自家用車を利用します。しかし、高速道路はどこまでも無料で、至る所から乗り入れする事が出来ます。高速道路の車線は片側２～３車線が多く、日本と変わりません。ただ、大都会のヒューストンでは６車線もありました。町を走っている車の種類は様々ですが、トヨタ、ニッサン、ホンダ、スバルなどの日本車が半分以上を占めていたので、誇らしく感じました。ちなみに娘夫婦の所の車もトヨタプリウスとスバルフォーレスタの日本車です。

４.人々

アメリカはよく人種のルツボだと言われ、実に様々な人が暮らしています。中でもバトンルージュでは黒人が多く、半分以上を占めます。黒人は独特の髪型をしている人が多く、見ているだけでも楽しいです。それにアメリカでは白人、黒人ともタトゥーをした人が多く目を引きました。タトゥーをしている個所は腕と背中が多いようですが、中には胸や太ももに施している人もいました。それと肥満した人が多い事も印象に残っています。日本にも肥えた人はいますが、アメリカ人の巨大さには驚くばかりでした。家は平屋の 1 戸建が殆んどで、日本のような高層マンションは全く見られませんでした。また、黒人が住むエリアと白人が住むエリアは分かれていると聞いたので、未だに人種差別があると感じました。

５.食べ物

アメリカではいろいろの料理を食べましたが、中でもアメリカ南部名物のザリガニとナマズのフライは珍しい食べ物で、とても美味しかったです。レストランに行くと、どこでも山盛りの料理が出てきます。とても食べきれないほどの量ですが、多くの人はパックに入れて持ち帰っていたのが印象的でした。ただ、アメリカにはチップをやる悪い習慣があり、とても厄介です。通常、チップはかかった料金の 20%をテーブルの係の人にやっているようです。このチップは持ち帰りの店でもやるそうですが、その場合は 17%くらいが相場だと云っていました。

６.ショッピング

家の近くにはウォルマートやコストコ、ホールフーズ、トレーダージョーズなどの大型マーケットがあり、毎日車で買い物に行きました。どこも品数が豊富で物が溢れているような感じでした。ただ、アメリカでは円安とインフレのため驚くほど物の値段が高く、ドルで表示された値段に現在の円相場の 160 倍を掛けると日本では考えられないような高額になります。ショッピングカートも超大型で、人々はそれに満載してショッピングをしていました。

そこでは紙幣を使う人は皆無で、すべてカードによる決済でした。なお、アメリカでは日本ならどこにでもあるコンビニはありませんが、pharmacy と書いた薬局がコンビニの代わりをしているようです。また、自販機がないのにも驚きました。唯一、高速道路のサービスエリアで見つけましたが、そこには何と鉄格子がかけてあり、いかにアメリカは治安が悪い

かを物語っているように思いました。

７.ワシントンDC

今回の旅行では念願のワシントンDC観光にも２泊３日で行きました。バトンルージュからワシントンDCまでは飛行機で２時間半位かかり、１時間の時差があります。ワシントンDCはアメリカの首都らしい雰囲気が漂っており、高い建物はなく緑の空間が多い落ち着いた町でした。日本人ガイドの案内で有名なポトマック川の桜やホワイトハウス、リンカーン記念館、国会議事堂などを巡りました。また、スミソニアン博物館には航空宇宙博物館、自然史博物館、美術館、植物園、アメリカ歴史博物館などが近いエリアに点在しているので、歩いたり、貸自転車で回りました。どれも展示物が充実しており圧巻でしたが、入場料が無料なのには驚き、アメリカの偉大さを感じました。

８.ニューオリンズ

バトンルージュからニューオリンズまでは１時間20分ほどかかります。ニューオリンズにはこれまで何度も行きましたが、大きなミシシッピー川が近くを流れており、フランスやスペインに統治された事もある町なので独特の雰囲気をした建物が多く、多数の観光客が外輪船や馬車に乗ったりしていました。また、ここは有名なジャズの町で、至る所でストリートミュージシャンがジャズを演奏していました。繁華街のバーボン通りには昼間からジャズを聴きながら酒を飲んでいる人が沢山いたので、夜はさぞかし賑あう事だろうと思いました。ただ、ここは全米一治安が悪いそうで、麻薬や殺人事件も頻繁に起こっていると聞きました。

９.帰途

帰りは車でヒューストンまで送ってもらったので、直行便で羽田まで行く事が出来てとても楽でした。なお、ヒューストンまでは車で４時間半くらいかかりました。帰りの便は向かい風なので羽田まで13時間もかかり、再び長い時間を狭い飛行機の中で過ごしました。しかし、羽田までは順調に飛行し、到着するとスムーズに入国審査や税関を通過する事が出来、予定通り福岡行の飛行機に乗り込みました。ここでもエヤポートサポートの人がアシストしてくれたので助かりました。福岡空港に到着したらすぐに空港のレストランに行き、食べたかった寿司定食とビールを飲みました。それから唐津行きの昭和バスに乗り込み、無事に懐かしの我が家にたどり着きました。

おわりに

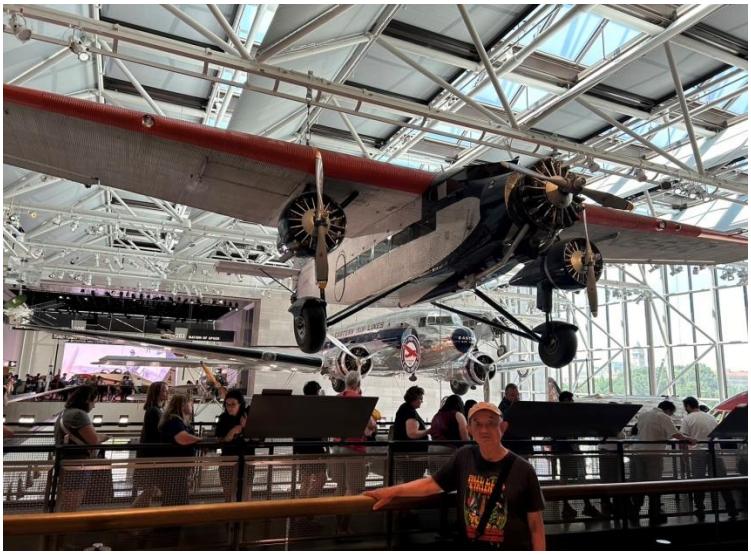
このようにして、81歳の私は多くの人の手助けによって無事に最後のアメリカ旅行をする事が出来ました。これからの残された人生は、これらの思い出を大事にしながら生きていきたいと思っています。

ザリガニ料理

リンカーン記念館

アメリカ国会議事堂

大型マーケット



スミソニアン航空宇宙博物館

スミソニアン自然史博物館

（自由投稿）

植 物 画 の ま ね ご と

池田　弘（筑紫野市在住）

まねごとは 17 年前、福岡県を定年退職してから始まりました。余裕ができた時間を持て余すのを心配して、妻が退職記念にと水彩画の絵具、筆、パレット、画用紙のセットをプレゼントしてくれたのです。子供のころから絵を描くのは好きで、小学校や中学校時代の図画の時間は、みんなが描き終わった後も先生に催促されるまで筆を握っていました。

大学では植物病理学や昆虫学の実験・実習時間に病斑や糸状菌の胞子、昆虫の形態を精密に観察して描写する授業があり、それらのデッサンは今も手元に残っています。

昭和 46 年に福岡県立農業試験場の病理研究室に赴任した当初、研究室の書棚には多くの病害図譜、辞典が並んでいましたが、立派な装丁の使い込まれた図譜を開くと、カラフルな手書きの病斑や病原菌が描かれており、写真にも劣らない精密さに驚かされたのを覚えています。最近はＮＨＫの朝ドラ「らんまん」で、牧野富太郎博士が描かれた膨大な植物の図譜・図鑑の物語が紹介されましたが、それに注ぎ込まれた時間と労力を考えただけでも気が遠くなります。

さて、私の植物画への動機は不純なもので、暇な時間に自宅で栽培している東洋ランや山野草を題材にすることでした。生来、創造性と記憶力に乏しいものの、長い時間をかけて観察し続けることは、これまで携わってきた職業柄か、苦にはなりません。「ＮＨＫ趣味悠々」の「ボタニカルアート入門」等の植物画入門書を先生に、植物画とは名ばかりの全くの我流によるまねごとです。

17 年の間に描いた植物の種類は、

ミヤマオダマキ、風鈴オダマキ、ハナシノブ、マツモトセンノウ、
フシグロセンノウ、エビネ、寒蘭、春蘭、セッコク、タイツリソウ、
サクラソウ、イワシャジン、タイリントキソウ、大文字草、ウツボカズラ、
エニシダ、コスモス、ビオラ、**アジサイ**、カラー、アンスリウム、**椿**、
柿などで、総数は 30 枚ほどです。

平均すれば１年に２枚にも満たない、暇つぶしの産物です。

ミヤマオダマキ

椿

ア ジ サ イ

「那の津会」入会のご挨拶

角重　和浩（福岡県在住）

今を去る事２年数カ月前、令和４年３月 31 日をもって福岡県を退職。同年５月に新規に「那の津会」に入会させて頂きました角重（カドシゲ）です。

皆様におかれましては、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。まずは新規加入のご挨拶が遅れましたこと、深くお詫び申し上げます。

小生、今を去る事 40 年前に福岡県に奉職しました。大学時代は農学関係には籍を置いていたものの、病害虫関係には全く無縁でした。昭和 62 年に福岡県に採用。２か月間の試用期間（当時、知事選の影響で６月１日が正式発令日でした。）を経て正式に配属されたのが当時の福岡県農業総合試験場　生産環境研究所　病害虫部でした。ここで初めて病害虫防除や農薬、植物防疫と云う分野に関わりました。当時の生産環境研究所長は野田さん。病害虫部は普通作・野菜・果樹の３研究室に分かれ、病害虫部長は田中さん。普通作病理に吉田さん、乙藤さん。普通作害虫に藤吉さん、山中さん。野菜病理に池田さん、野菜害虫に中村さん。果樹害虫に山田さん、堤さんがおられました。丁度、病害虫専技に吉村さんが異動された年で、小生は吉村さんに代わり普通作病理、加えて残留農薬分析担として着任した格好です。今思えば、そうそうたるメンバーの中に加えて頂だいたものだなと、恐縮至極の気持ちです。

この年、一緒に病害虫部へは野菜病理に梶谷さん、果樹病理に吉住さん（旧姓）も１年生として赴任しています。

既に亡くなられた方もおられますが、懐かしく思い出されます。
当時は乙藤まりさんの下について、野外では田んぼ歩き、室内では PD や PS 培地づくりから教わりました。与えられた研究テーマは「イネばか苗病のベノミル耐性菌対策」、「イネもみ枯細菌病の苗腐敗と本田防除対策」です。もみ枯細菌病対策は当時の地域重要課題として対応しており、主研究機関であった九州農業試験場（在福岡県筑後市、現農研機構九州沖縄農業研究センター筑後研究拠点）にも良く行っていたものです。

その後は場内異動で土壌･肥料研究部門である化学部。それから県庁へと異動を重ねて行き、次に病害虫や植物防疫部門と出会ったのは四半世紀近く経過した平成 25 年４月、県農林業総合試験場病害虫部長に着任した時でした。

丁度、県病害虫防除所との合併を控え、人事や職員の処遇に関して難局を迎えていた時期でした。一方、病害虫はと云うと平成 25 年のトビイロウンカの大発生、これまで対ウン

カ剤として盤石の地位にあったアプロード剤の効果低下の疑い、平成 26 年からはキウイフルーツかいよう病対策等も重なり、国（農林水産省）や地元ＪＡとのギリギリの折衝も経験させて頂きました。なかなかハードな病害虫部長時代でしたが、良きスタッフにも恵まれ何とか職務を遂行できたのかなと思います。

病害虫部長時代は病害虫防除所長も兼務していた関係から、九州農政局担当部署の方々や各県の病害虫防除所の方々ともお話しができ、加えて、九防協等通じて農薬メーカーのお歴々の方々ともお話しする機会にも恵まれ、きつかった半面、今にして思えば、良き事も多くあったなと、この挨拶文を書いていて懐かしく思い出されます。

県職員としては５年間の病害虫部長時代を経て、農林業総合試験場　八女分場長へと赴任するのですが、令和３年３月に定年退職。同年４月から現職場である全国農業協同組合連合会　福岡県本部（ＪＡ全農ふくれん）勤務に至っております。所属は農機資材部　生産資材課。役職は上席技術主管と云う立場です。以前、長きにわたりＪＡ全農ふくれんの職員として農薬・肥料の技術面を支えてこられた木原さんの後任にあたります。

この課は肥料・農薬を取り扱っており、当方の役目は前任の木原さん同様、肥料・農薬に加え、土壌・施肥・病害虫防除と云った分野の技術顧問と云う立場です。もともとこれらの分野は自分の専門とする分野でもあり、ＪＡ職員への研修全般や農業大学校での講義、各種技術面での現場相談対応や技術指導、県植物防疫分野や福岡県生産資材協会、九州病害虫防除推進協議会、農薬や肥料メーカー各社への対応等、守備範囲は幅広く、普通に残業もありますが、若い職員さん達と一緒に忙しくも楽しい毎日を送らせて貰っています。
さて、昨今の植物防疫や病害虫発生状況に向けますと・・・・・

病害虫の面では暖冬の影響による病害虫発生様相の変化や、侵入警戒を要する病害虫の動向、農薬の面では各種薬剤の感受性低下の進行、一方、農薬の再評価制度による登録農薬の減少等、病害虫防除の取り巻く環境は一層厳しさを増していくようにも感じますが、出来る限り頑張って行きたいと思っております、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

第 47 回　那の津会ゴルフコンペ成績（2023.10.25）

セントラル福岡ゴルフ倶楽部
幹 事 ： 長 崎 （ 安 武 ）

10 月 25 日、気温 24℃―快晴の天気に恵まれて絶好ゴルフ日和の中、今回は 12 名のご参加で那の津会の会則趣旨に則り楽しいい親睦ゴルフとなりました。

優勝者のコメントにもありましたが、当日のセントラル福岡のコース、中でもグリーン上は早さ、傾斜共に難しかったようですが、下記成績表のとおり那の津ベテラン会員の好成績で出来上がっています。優勝は久しぶり参加の実力者＝合原さん、準優勝は三坂さんでした。おめでとうございました。

３位＝長崎、５位＝堤さん、７位＝永田さん、BB 賞＝春田さんが入賞です。
☆ニアピン賞＝三坂さん・中川さん・池田さん・春田さん
☆ドラコン賞＝池田さん・永田さん　　がそれぞれ獲得いたしました。
おめでとうございます。

なお、今回、那の津会事務局より助成金を頂きました。参加者全員に特別賞を準備しお持ち帰り頂きました。有難う御座いました。

次回開催、幹事は、令和６年４月頃：合原さん、春田さんでよろしくお願いします。

【 組 合 せ 】

1 組 ： 長 崎 五 男　吉 村 大三郎　永 田 信 彦　春 田　潔
2 組 ： 小 牧 孝 一　池 田　弘　堤　隆 文　青 木 康 晃
3 組 ： 三 坂 克 彦　種子田 秀秋　合 原 茂 宣　中 川　弘

順　位	氏　名	out	In	GROSS	HDCP	NET
優勝	合 原 茂 宣	44	48	92	16.8	75.2
準優勝	三 坂 克 彦	46	49	95	19.2	75.8
3　位	長 崎 五 男	47	46	93	16.8	76.2
4　位	中 川　弘	46	53	99	22.5	76.2
5　位	堤　隆 文	55	57	112	34.8	77.2
6　位	種子田 秀秋	48	57	105	26.4	78.6
7　位	永 田 信 彦	45	54	99	20.4	78.6
8　位	青 木 康 晃	46	52	98	19.2	78.8
9　位	小 牧 孝 一	42	50	92	12.0	80.0
10 位	吉村 大三郎	58	55	113	31.2	81.8
11 位	春 田　潔	56	63	119	36.0	83.0
12 位	池 田　弘	55	51	106	22.8	83.2

ＮＰ賞	out	№.２	三 坂 克 彦	№.６	中 川　弘
	in	№.11	池 田　弘	№.16	春 田　潔
ＤＣ賞	out	№.５	池 田　弘	In №.12	永 田 信 彦

【 収 支 報 告 】

（ 収 入 ）	会　費	2,000 円 × 12 名	＝	24,000 円
	罰　金			3,800 円
	助成金			10,000 円
	繰越金			23,981 円
	合　計			61,781 円
（ 支 出 ）	賞　品（ギフト券）			19,000 円
	参加賞			13,200 円
	表彰式			7,730 円
	合　計			39,930 円
（ 繰 越 ）				21,851 円

優勝者の合原さんより一言・・・

当日は少し暑いくらいの絶好のゴルフ日和になりました。スコアの方は皆さんやや低調だったようで、グリーンが難しかったことが影響したと思われます。

私は結果的にハンディキャップに恵まれて優勝することができました。何よりも楽しくラウンド出来てよかったと思っています。

那の津会だよりに掲載された長崎さん分析の「優勝に近いスコア」に、まさに今回もその通りのスコアになりました。驚きました。

次回、来年４月のコンペは松永さんの協力を全面的に願って、春田さんと一緒に幹事をさせていただきます。

以　上

第 48 回　那の津会ゴルフコンペ成績（2024.５.８）

セントラル福岡ゴルフ倶楽部
幹 事 ： 合 原 ・ 春 田

５ 月８日のコンペは、吉村会長をはじめとして 10 名の参加でした。

当日は少し肌寒く、途中で傘が必要なくらいの雨になりコンディション的には悪い条件でしたが無事に終えることが出来ました。優勝は長崎さん、久しぶりに優勝コメントを聞くことが出来ました。

また、特別賞のニアピンは長崎さん、今泉さん、松永さんの３名、ドラコンはアウト、インとも石田さんが獲得しました。

次回は 10 月の予定、長崎さんと古庄さんのお世話になります。よろしくお願いいたします。

【 組 合 せ 】

1 組 ：合 原 茂 宣　　吉 村 大三郎　　石田省三郎　　古 庄 雅 彦
2 組 ：長 崎 五 男　　三 坂 克 彦　　池 田　　弘
3 組 ：春 田　　潔　　今 泉 博 樹　　松 永 享 子

順　位	氏　　名	out	In	GROSS	HDCP	NET
優勝	長 崎 五 男	45	51	96	25.2	70.8
準優勝	春 田　　潔	48	51	99	26.4	72.6
3　位	今 泉 博 樹	46	44	90	15.6	74.4
4　位	石田省三郎	53	48	101	26.4	74.6
5　位	合 原 茂 宣	48	44	92	15.6	76.4
6　位	池 田　　弘	57	57	114	34.8	79.2
7　位	松 永 享 子	52	60	112	32.4	79.6
8　位	三 坂 克 彦	50	49	99	18.0	81.0
9　位	古 庄 雅 彦	49	49	98	16.8	81.2
10 位	吉村 大三郎	59	59	118	36.0	82.0

ＮＰ賞　out　No.２　今 泉 博 樹　　No.６　該当者なし
　　in　No.11　長 崎 五 男　　No.16　松 永 享 子
ＤＣ賞　out　No.５　石田省三郎　　In　No.12　石田省三郎
大波賞　三 坂 克 彦

【 収 支 報 告 】

（ 収 入 ）	会　費	2,000 円 × 10 名	＝	20,000 円
	罰　金			3,600 円
	助成金			10,000 円
	繰越金			21,851 円
	合　計			55,451 円
（ 支 出 ）	賞　品（ギフト券）			18,000 円
	表彰式			5,920 円
	合　計			23,920 円
（ 繰 越 ）				**31,531 円**

＊ 次回、秋の那の津会コンペは、**10 月 7 日（月）セントラル福岡ゴルフ倶楽部**での開催です。日程調整、宜しくお願い致します。

以　上

那の津会からのお知らせ

○「**那の津会だより**」は会員の情報誌であり、意見交換の場でもあります。奮って投稿して下さい。日常の出来事・気が付かれたことなどを情報として投稿して下さい。なお、今まで年２回の発行でしたが、原稿がなかなか集まらないので、**今回の総会で発行を年１回、10 月１日付けで行うことになりました。**

○**県幹事関係の方**は、年に１回の情報提供ですから積極的に投稿して下さい。但し、原稿料はありません。**自分の県・団体・業界の PR 等**をお願い致します。

○「**那の津会だより**」は「九防協 那の津会」の会報です。

会　員：九防協に携わった者の OB 有志者です。
目　的：会員相互の親睦と交流、併せて九防協の事業に協力する。
事務局：九防協内
〒810－0001　福岡市中央区天神４丁目 9－12　光ビル３階

○九防協ホームページ（http://kyuboukyo.jp/）が 2019 年５月 21 日からリニューアルしました。これからもご活用ください。

また、このたび九防協事務局のご協力もあり、「那の津会」の中に「設立目的、役員名簿、九重愛好会」が掲載されています。

「九防協ホームページ」のトップページ ⇒「那の津会」の順でご訪問ください。

○「九重愛好会」の登山と「那の津会ゴルフコンペ」はコロナ禍で一部休止となりましたが、昨年から活動を始めました。

※詳細は別途ご案内いたしますので、日にちを確保しておきましょう。

○**会員様専用ページを閲覧**するには、**ID** と**パスワード（ユーザ認証）**が必要ですので、詳しくは、**九防協事務局へお問合せ下さい。**

○**ワインに興味**があり、「**ワインを楽しむ会**」をしたい方は、「編集後記」に記載しています**松崎のメールアドレス**までご一報ください。日時・場所等について打合せをしたいと思います。宜しくお願いします。

編　集　後　記

◎2023 年度の「那の津会」新入会員は、**今泉博樹** 氏、**入江裕章** 氏、**尾松直志** 氏（鹿児島県）、**櫛間義幸** 氏（宮崎県）、**秋山茂信** 氏、**江口浩喜** 氏の６名です。2022 年度入会の角重和浩 氏から入会挨拶を頂きました。まだ、**「入会挨拶」未投稿の方**は、お送り頂ければ幸いです（**A4,１枚程度**）。宜しくお願いします。

◎**県幹事情報**として、九防協事務局で取りまとめた「定期人事異動情報」をそのまま掲載してましたが、本年度は未作成なので、異動情報は省略します。

◎今回の**自由投稿**は、山田健一会員からの**「最後のアメリカ旅行」**、池田 弘会員からの**「植物画のまねごと」**、編集担当の松崎からの**「肉酒場ＢＯＮ」で飲んだフランス産赤ワインと食事・「昨年のワイン会（イタリア、トスカーナ地方のワイン）に参加して」**の３本です。

今までを振り返りますと、実にいろいろな内容で、会員の方々の活躍ぶり、元気さが伝わってきます。今まで旅行にもお出かけされた方からの投稿がありましたが、このコロナ禍での外出が厳しいとは思いますが、旅行だけではなく、近況等も投稿されたら如何でしょうか（コロナ禍での過ごし方、古い話など）。宜しくお願いします。

◎趣味・娯楽の話も、言い出せば切がないほど出てきそうです。こちらの情報や連絡もお願いいたします。

◎「**那の津会だより**」に**投稿**される方は、①できるだけ「**メール**」で、**九防協事務局**か編集担当の**松崎**まで、**②大容量の場合**は「**電子媒体**」に入力のうえ、**九防協事務局**まで**ご持参**いただくか、**郵送**でお願いします。

〇**九防協**メールアドレス：
S45jimukyoku3333@kyuboukyo.com（S は半角大文字）

〇**松崎正文**メールアドレス：
m_masafumi12.69@b2.bunbun.ne.jp（__はアンダーバー）

◎新型コロナウイルスが感染法上、２類感染症から５類感染症になりましたが、ウイルスは変わっていないので、高齢者が多い会員の方々におかれましては、今まで同様、生活行動等に十分お気を付けていただくとともに、「三密」をできるだけ避け（重症化リスクの高い人は有効)、「手洗い（基本的感染対策として有効)」、「うがい」、「マスク着用（個人の判断)」を励行されたら如何でしょうか。また、これからはインフルエンザの流行も考えられます。健康管理には十分お気を付けていたくようお願いします。

◎次回、第 52 号は 2025 年 10 月を予定しております。**会員各位、各県の県幹事の方々、近況等のいろいろな情報の提供**を宜しくお願いします。(M)

注：**投稿される方**は、**事務局**又は**編集幹事**に**送付される前**に、**今一度、誤字・脱字・表現等を見直され、送付**をお願いします。**最近**、このようなことが**多い**ので、**編集に苦慮**しています。